

令和5年

# 第7回教育委員会会議録

(開会 令和5年6月23日)

(閉会 令和5年6月23日)

岐阜県可児市教育委員会

令和5年6月23日午前9時00分開会  
会場：市役所5階第1委員会室

#### 出席委員

堀部好彦君（教育長）  
長井知子君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）  
梶田知靖君（教育委員）

#### 欠席委員

伊藤小百合君（教育委員）

#### 説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）  
佐野政紀君（学校教育課長）  
上北泰久君（学校教育課主任指導主事）  
真野純次君（学校教育課指導主事）  
木村千恵君（学校教育課学校支援係）

水野 修君（教育総務課長）  
水野伸治君（学校給食センター所長）  
三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）  
福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

#### 出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

#### 日程及び審議結果

- 1 開 会
- 2 前々回、前回会議録の承認
- 3 教育長報告
- 4 教育委員報告
- 5 議 事
  - ①議案第19号 可児市学校運営協議会の委員の委嘱について 【原案可決】
  - ②議案第20号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について 【原案可決】
- 6 各課所管事項
- 7 委員からの提案協議事項
- 8 その他
- 9 閉 会

### 開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。  
第7回の教育委員会会議を開催させていただきます。  
定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということですのでよろしくお願いいたします。

### 前々回、前回会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前々回及び前回の会議録の承認について。
- 教育総務課長（水野 修君） 前々回及び前回の会議録に変更はございません。以上です。
- 教育長（堀部好彦君） 変更はなしということで、よろしくお願いいたします。

### 教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） では、教育長報告でございます。  
大きく2点お願いします。  
1点目です。先月、5月18、19日と私、北海道、帯広に行ってまいりました。全国都市教育長協議会研究大会ということで、全国の教育長が800名くらい、都市の教育長、町村ではなくて市の教育長なんですけれども、一堂に会しての協議会でした。  
いろんな内容があった中、一番時間が割かれたのは文科省の行政説明でした。この行政説明の資料、膨大な資料だったんですけれども、これにつきましては事務局の者に回覧をして概要を理解していただきまして、今後の政策立案、取組等に生かしてくださいというふうにお願いしておりますので御承知おきください。  
ここで取り立てて報告といいますか、私の感じたことということで報告させていただきたいんですけれども、協議会とはほとんど関係のないところなんです、大会は木曜日、金曜日で行われました。前日、水曜日に帯広に私はおりました。夕方着いたんですけれども、ちょっと時間があったもんですから、帯広のまちにどこかいいところはないかなと思って、百年記念館というところへ行きました。  
その百年記念館って何かというと、帯広の開拓、北海道って明治時代にいろんなところを開拓されていますよね。国策で開拓をされました。主に石炭とかいうような鉱山資源を開発するというので、富国強兵の国策の中で行われた開拓だと理解しているんですが、帯広もその流れで開拓をされ、資源開発とともに農地の開拓とかということが行われた。その100年を記念して、何十年か前につくられた記念館です。  
そこで、開拓者についていろいろ勉強しました。開拓に最初に入った中心人物の中で、依田勉三さんという方がいらっしゃるって、その依田勉三さんを中心に開拓が進められました。それで私、これも初めて知ったんですけれども、開拓には全国から開拓者が集められた。岐阜県からも開拓者が何千人、7,000人、8,000人と行っているようです。一覧を見てみると岐阜県は全国の2番目なんです。帯広に入って開拓を手伝われたんかで2番目です。  
食事をして、夜、街に繰り出して、その店の人といろいろ話をしていると、自分は岐

阜から来たなんていうふうに話をすると、その人の親戚は岐阜にあつたりとか。ということ、開拓者の流れが今も続いているんだなあなんていうことを思いながら。

同時に思ったのは、帯広の今の主な産業は農業なんですよ。農産物で帯広が成り立っている、支えられているということで、豊かな食材、豊かな帯広というのは開拓者のおかげなんだなあ、岐阜県人もその一翼を担っていたんだなあなんていうことを思いながら前日過ごしました。

それで、その次の日の協議会開会式冒頭で、全国の教育長会の副会長さんがお話をされた。その中にこの依田勉三の話が出てきた、偶然にも。依田勉三をはじめとする帯広を開拓したその開拓者たち、そういった先人のおかげで今の帯広があるんだと。そういった依田勉三の業績をたたえながら、じゃあ私たちは教育長は、未来の子供たちに今の子供たちに何が残せるんだろうかと。開拓者が豊かな帯広を残したのと同じようにというようなことで、依田勉三を例に挙げながら、私たちの背筋が伸びるようなお話をされました。

そういったことを思ったときに、私は前日、そういった記念館で勉強させてもらったということもあったもんですから、感慨深くお話を聞いたとともに、可児市の子供たちに何が残せるんだろうかというようなことも考えながらこの大会に参加をさせていただきました。

今日、午後からは教育大綱についての検討もしますし、それを受けて教育振興基本計画の策定ということが進みますので、本当に大きな話になってしまいましたけれども、可児市の子供たちに何が残せるのかということですね。そのスタートとなるような計画がつけるといいかなあなんていうことも思っています。これが1つ目です。

2つ目ですが、少年の主張可児市大会が6月17日に開催されました。

小栗委員も審査員として参加をしていただきました。また、お話をさせていただけるとありがたいなあということも思っています。私からはこの大会での子供たちの主張、毎回感じ入ってすばらしいなあというふうに思うんですが、命が大切にされる社会への願いだとか、マイノリティーとともに歩む共生社会への願い、そういったものを熱く語りながら、自ら社会に働きかけようとするその主体性を私は本当にうれしく思っています。

それと同時に、私は大会審査の代表として、最後の講評を述べられた伊佐治才二校長先生、この校長先生のお話もとっても印象に残っています。

講評の中でこんなことを言っておられたと思います。

今日、主張を発表した中学2年生の生徒たちは、コロナ禍が始まったときは小学校5年生でした。そして、小6、中1、中2と思春期入り口の時期を感染防止対策により様々な学習活動が制限される中で学校生活を送ってきたんだと。しかし、今日の発表を聞いて、生徒たちの学びは止まっていなかったんだと感じましたと。私も全くそのとおりだなあと共感をしました。

ここでやっぱり改めて、学校の先生方がコロナ禍でいろんな活動や学習指導が制限される中で奮闘されたことに対して敬意を表したいなあということも思いながら、校長先生のお話を聞かせていただきました。

私からの報告、以上とさせていただきます。

## 教育委員報告

- 教育長（堀部好彦君） それでは、教育委員報告に移りたいと思います。
- 教育委員（小栗照代君） おはようございます。

まず、令和5年度教育委員学校訪問がスタートいたしました。教育委員の方々と事務局の方々と一緒に学校訪問を現在させていただいているという状況になります。学校訪問に当たって、学校との細やかな日程調整をしていただきまして、ありがとうございます。

今回の日程調整をしていただくに当たり、ちょっとこちらのほうから幾つか御提案をさせていただいたんですけれども、昨年までは2校目に訪問する学校で給食をいただいていたんですけれども、今回は給食センターで給食をいただくというような形でやっていただきました。

学校の給食の準備の手間とか、それから給食のときにどなたか先生の時間を拘束してしまいますし、あと3校目に行くまでの時間が長いものですから、その間の待機ということでちょっと長居をしたりということで大変心苦しく思っていたので、何とか給食センターでということをお願いをしたら手配をしてくださりました。

給食センターのほうも、お手間をかけて申し訳ないんですけれども、快くお迎えくださって、おいしい給食をいただくことができました。ありがとうございます。

早速ですが、6月12日の旭小学校、東明小学校、それから6月14日の帷子小学校、春里小学校、6月21日に桜ヶ丘小学校、広見小学校、中部中学校を訪問させていただきました。

共通点として思ったのは、ICTにより先生方の教材の準備の時間が短くなって、残業が全体的に減ってきたというお話が各校でされました。しかし、それは今までと比べて減ったということであって、まだまだ人手不足だよというお話もございました。

それから、マスクを外すということなんですけれども、高学年ほどやっぱりまだまだ外せていない。強制はできないですが、熱中症などの対策があるので、体育とか外遊びのときには外すように促しているというお話でした。

それから、プールについてですが、設備の不具合で開始が遅れている学校もあるんですが、先生や保護者の方やボランティアの方、PTAなどがプールの掃除に御協力くださって、無事にスタートしている学校が多かったです。

プールの授業も拝見しましたが、子供たちも楽しそうにプールに入っていましたし、それから先生の御指導の件でも不安があるというお話もあったんですが、先生もきちんと御指導してくださるのを拝見しまして、ほっとしていたところでございます。

個々の細かい内容については割愛しますが、学校訪問で私が心に残ったことを何校か、幾つかお話しさせていただこうと思います。

まず、旭小学校の校長先生ですけれども、地域の方々がとても協力してくださっていると。子供たちには、地域の御協力は当たり前じゃないんだよ、自分たちも地域に貢献していくんだよということを担任の先生から子供たちに話をしてもらうように伝えていると。そのために、まず子供たちができることは挨拶をすることなんだというお話をしてくださりました。地域に還元できる子というフレーズをおっしゃったのが心に残っています。

続いて、東明小学校なんですけれども、児童数が少なくなったからこそ、地域との関わりが大切であると。今まで善意とボランティアというふうに言ってきたんですけど、いつまでも善意とボランティアでは駄目だと。それから、校長先生のすごく強い思いをお聞かせくださいました。どういう子にしたいかというのを地域と共有することがとても大切だということをおっしゃっていて、元気に自分の意見を言える子に育てたいんだという強い思いをお話してくださいました。

それについては、地域の方との関わりの際、いろいろ例えば田植などに御協力いただいたりということで、いろいろ地域の方と触れ合うこともあると思うんですけども、受け身ではなくて積極的な姿勢を持たせるために、子供たちがいろいろ意見を言えるような場を設けていって、地域の方とのコミュニケーションを強くしていきたいということをおっしゃっていました。

次に春里小学校ですが、校長先生の勢いとか明るさを大変感じまして、地域がとても力をくださっているというお話を春里小学校でもおっしゃっていました。それと、去年は褒めることに力を入れてきたんだが、今年は子供に関わることに力を入れていると。

具体的にはどういうことかということ、必ず1回は名前を呼んであげる。特に、できる子とかおとなしい子にはなかなか声をかけられなかったりということもあるんですけど、そういう子にこそ声をかけるようにということを進めているということをおっしゃいました。

それとコロナ禍の規制が緩くなっても、元に全部戻すのではなくて、コロナ禍で制限してきていいことはそのまま継続していこうと思っていると。例えば、全校集会のオンライン化というのは、時間短縮にもなるし、体育館に集めて体操座りでずうっと聞いているよりも教室で座って聞いたほうが真剣に聞けると。そういうところはそのままオンライン化を進めていって、例えば離任式のように集まったほうがいいというものについては全校で集まるということで、そういったことを見直ししていくというお話をしてくださいました。

それから、桜ヶ丘小学校なんですけれども、校長先生からも素晴らしいお話を伺ったんですが、教頭先生からお聞きした言葉がとても印象的だったんですけれども、数年ぶりに家庭教育学級が開催された。そのときのお話なんですけど、開講式のときに1人ずつ自己紹介をさせていただいたそうなんですけれども、みんなが泣き出しちゃったと、お母さん方。それは何ですかとお話を聞きましたら、涙の開講式だった理由というのが、1人ずつお母さんが挨拶をするときに、自分の子の悩みなどをお話しされたんですが、子育てができていないとか子育てに自信がないとか、これでいいのかというふうにみんなが思って、本当に全員が泣き出してしまったと。実際に会って話をするというのが大切だということを改めて感じたというふうに教頭先生がお話をしてくださいました。

私自身も乳幼児学級、幼児学級、家庭教育学級にずっと参加させていただいていましたし、学級長も何度かさせていただいたんですけれども、その学級の講座中とか、そこで仲よくなったママ友と終わった後にランチに行ったりといったときに、たわいもない雑談の中で先輩のママからアドバイスをもらったり、それから子育てのヒントを感じたりとか、あとはみんな同じ悩みなんだなということが分かったり、あと自分の悩みはそんなに悩んでいること、大したことなかったんだなとほっとしたりというようなことと

いうのは、すごくそれで助けられたことを思い出しました。コロナ禍でママたち同士の交流がなくて、子育ての不安とか質問を解決するところがなくて個々に悩んでいたんだな、この数年間ということですね。

ですから、実際に会って話をするということも大切であったりとか、それからそういった機会を復活していくことももちろん大事ですし、それから新たにそういったところを設けたり、そういった機会を設けたりするということは大変大切だなというふうに感じました。

それと、SOSの話なんですけど、子供たちからSOSを出してといってもなかなか出しづらいんですけども、まずは先生たち同士がSOSを出し合えるようなことが大切だということで、先生方が困ったときはどの先生でもいいからSOSを出すようにということを進めてきたと。すると、先生方が悩みを抱えずにお互いに助け合える雰囲気が出てきて、大変今いい雰囲気ができてきたということを桜ヶ丘小学校で教えていただきました。

広見小学校ですけども、校長先生が緊急の対応で御不在となりました。教頭先生も急遽途中から退席されたんですが、生活指導の先生方がしっかりと学校のことを把握していらっしゃって、私ども教育委員の訪問に素晴らしいお答えをしてくださいました。

時には、校長先生、教頭先生、別席でそういったお話を伺えるのも、そういう機会もいいんだなというのもちよっと思いましたけれども。

校長先生の思いを教頭先生がおっしゃったんですけど、職員が元気であることということをおっしゃいました。校長先生や生活指導の先生方を拝見していますと、校長先生御不在でも、校長先生の思いをしっかりと職員の皆さんが理解して進めていらっしゃるということを感じました。それから、教頭先生より、子育ては正解がない、特効薬がない、一つずつやっていくしかないという言葉をおっしゃったのも大変印象的でした。

長くなって申し訳ございません。

6月15日、兼山小学校の運動会を参観させていただきました。

校長先生がいろいろと説明してくださったりしていたんですけども、今回一人の欠席もなく、小規模特認として兼山地域以外からお越しになっていらっしゃる児童も兼山の子と全く変わらず、すっかりなじんで参加していらっしゃいました。校長先生のお人柄がうかがえる大変温かい雰囲気が感じられる兼山小学校の運動会でした。

例えば、1・2年生のお遊戯では、高学年の児童たちも応援席やそれから備品の準備のテントで一緒になって踊っているんですね、自ら。兼山小学校らしい温かい縦のつながりというのが見受けられて、ほんわかと温かい気分にさせていただきました。それから、競技の中盤で金管バンドの演奏もありまして、大変りりしく素晴らしい演奏を拝見させていただくことができました。

学校訪問に当たりましては、全体として、こんな子供になってほしいという校長先生のビジョンが明確で、思いがしっかりと伝わっている学校というのは、先生方も大変明るくて生き生きとしていて、子供たちにもそれが伝わっているなという印象を受けました。学校訪問で懇談をさせていただいているときでも、素直な発信をしてくださって、活発で有意義な交流ができたなというふうに思っています。

最後ですが、先ほど教育長も話されましたが、6月17日、少年の主張可児市大会に審査員として参加させていただきました。可児市内の中学校から代表12名の生徒が発表したんですけれども、どの生徒さんも身近な事柄に問題点を持って、しっかりとした内容と話し方で大変すばらしい主張だったなと思います。

審査をするに当たりまして、順位をつけるということの難しさ、その日に向かって a 1 a の大ホールで一生懸命文章を考えて、一生懸命発表の練習をして覚えて、それで堂々と発表する姿を見て、大変心を打たれました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

大変興味深い話もたくさん伺いました。私も学校訪問につきましては、訪問して校長の話やいろいろ聞いて、子供たちの姿も見てつかんでおるつもりだったんですけれども、今の小栗委員のお話で、初めて自分が知るようなこともあって、大変興味深かったです。

コロナ禍が一段落して5類に移って、ちょっと世の中が変わってきたよというところの訪問で、まずプールの指導が再開したということ。学校職員課訪問の際、見ることができて、私もうれしかったです。これは教育総務課の方々の御努力も基盤にはあって、これがなければ本当にできなかったことで、本当に改めてすばらしいなあということを思いました。桜ヶ丘小学校の涙の家庭教育学級、なるほどなと思って。コロナ禍で親さんが孤独になっている、子育てが本当に不安いっぱいの中で過ごしておられたんだなあということを感じて、これは貴重な情報だなあということを思いました。

もう一点、校長のビジョンがはっきりしている学校は職員が元気で、それが子供に伝わるって、そのとおりだなあと私も思います。校長のビジョンは可児市流で言えば、校長がどんな「笑顔の“もと”」を育みたいと思っているのかということだと思います。私はいつもここに焦点を当てて学校を見させていただきたいなあと思っているんですけども、その点、小栗委員の視点、大変ありがたいなあというふうに思っていますし、報告のあった学校の校長先生、皆さん元気でやっておられることを改めて感じてうれしかったです。ありがとうございます。

○ **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いします。

学校訪問に行ってきました。学校ごとでいろいろ教えてくださるやり方は違うんですけれども、先生方が資料をつくってくださって、子供たちの様子だとかいろいろ教えてくださる中で、校長先生、教頭先生、そのほかの管理職の先生方との様子を見てみると、すごくこの学校は風通しがいいんだなあ。きっと先生方もこの学校は働きやすいだろうなあというのがやっぱり伝わってくる学校というのも何校かありました。

私が学校訪問の中で聞きたいことがあって、不登校はもちろんなんですけれども、思春期の子供たちは、悩みもあり聞も抱え、そんな子供たちの見えない部分に対して学校や先生はどんなことをされていますかということ。ちょっと難しいと思うんですけど、お聞きしたときに、SOSの学び、発信の仕方というのはもちろんそうだけれども、学校にポストを置いて、その中に子供の悩みとかを入れてもらうというのを取っている学校も何校かありました。その中でどんなことの悩みが多いですかというと、やっぱり人間関係が多いということでした。

その中で、特にすごいなと思ったのが、消しゴムで消したところをあえて聞くと言わ



れていた。帷子小学校がされていて、細部まで見られてすごいなあと思いました。

あとは、コミュニティ・スクールもいろいろお聞きしたんですけども、大体先生が言われるのは、やっぱりまだまだこれからなので、自分たちの校長、教頭は何となく把握しているけれども、まだ先生レベルではやっぱり全然分かっていच्छゃらないので、そこを教えていくということと一緒に頑張っていきたいということでした。

やはり、小栗さんも言われたように、子供に対してコミュニティ・スクールでどんなことをやっていきたいとか、明確にビジョンを持っていच्छゃる先生もたくさんいच्छゃいまして、その中でもすごく印象的だったのが、桜ヶ丘小学校の校長先生がおच्छゃったんですけども、僕たちは小学校、中学校を卒業したときに、そのときに自分でやっていける子供を育てたい。そういう子を育てられるようにしていきたいということと言われたときに、私も子育てをする中で、自分の手を離れたときに子供が自分の足で立てる子にしたいという思いがあったので、とても共感できました。

あと、春里小学校の校長先生が言われていたんですけど、見えない部分の子たちをどうしているかというところで、手のかからない子供たち、そういう子たちも気にかけて声をかけるようにしていますと言われていました。

学校訪問をしていると、小学校、中学校がある中で、小学校では特に問題がなくても中学校に行くと、リストカットなど自傷行為をしてしまうケースを耳にします。子供の不安を親と教育関係の皆が気づいてあげられるといいなあと思うので、手のかからない、ある意味、例えば賢い子だったり、何ら問題のない子たち、そういうところにも目を向けてあげられる、そういったお話を聞いたのがとてもよかったなと思いました。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

長井さんはぶれない視点があって、SOS発信など、子供の見えない部分に目を向けようとされる場所とか、大変ありがたいです。そういった視点で学校を大丈夫ですか、またはこの点は今の視点から見たときに素晴らしいですよというところで刺激をさせていただけることは大変ありがたいなあということをもまず思いました。

それから、風通しのよい職場とか、働きやすい職場というお言葉もあったんですけど、これは本当に教職員のストレスは子供たちに直結しますので、この視点も大切だなということも私たちも常々思っています。こういった職場のストレスが、例えば病気、休職に結びついてしまったりだとか、ひいては不祥事を起こすことにつながったりだとかということもありますので、この視点も大切だなあということも思います。

あと、コミュニティ・スクールについてもお話を聞いてくださってありがとうございます。校長先生方が慎重に、まだこれからですということでも徐々にやっていきたいですよということで、そのスタンスは私も全くそのとおりでいいなあということも思っています。形だけ整えてもすぐ形骸化しますので、本当に大切、なぜこれをしていくのかということも教職員にもじっくり理解をしてもらいながら進めていくことは本当にありがたいなあというふうに思います。

もう一つ、桜ヶ丘小学校の校長先生が卒業したとき、卒業後の話、そこに目を向けておられる指導について印象に残ったと言っておられた、御自身も子供が手を離れたときことを考えているよというふうにおच्छゃったんですが、これもまさに「笑顔の“も

と”」であると。

私が、「笑顔の“もと”」には枕言葉がありますということをよく言うんですけど、「未来の笑顔につながる」という枕言葉。未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」を育むというのはそういうことじゃないかなというふうに思っています。将来の子供たち、先ほどの私の話で教育振興基本計画策定のこともお話をさせていただきました。卒業したときにどんな資質、能力や信条がある子が幸せに笑顔で生きていけるのか、そこをじっくり見詰めていきたいなというふうに思っています。

それが例えば、小栗委員が地域貢献の話をして旭小学校の校長先生がされた。地域に還元できる子というふうに言っておられたんですが、私はそういった資質、能力、地域に働きかける、地域の役に立つ人間、人の役に立つ人間になっていくということも私は卒業した後に幸せに生きていくことの資質、能力のうちの一つじゃないかなあなんてことを思っています。ありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。

私、6月12日に午後からになります、土田小学校さんのほうへ学校訪問に初めて行かせていただきました。こちらでは、木村校長先生からいろんなお話を聞かせていただきまして、その中で3点ほどお話をさせていただきたいと思えます。

土田小学校さんの各学年の児童数の中で3割の外国籍の子が在籍しているということで、外国籍の子供たちに手を差し伸べたいんだけど、やっぱり教員不足というところが悩みがありますということでした。

ただ、土田小学校さんの運営協議会のメンバーの中で1団体の方がボランティアで10人ほど募っていただいて、その方が声をかけて学校へ来てくださって、外国籍の子たちの指導に当たってくださるというお話も聞かせていただきました。

また、一人一人の先生方が外国籍の子供たちが理解できる授業を心がけているということでした。

それから、2点目になります、不登校についてのお話を聞かせていただいた中で、私が先月、幼保連携の会議のほうに出席をさせていただいたんですけど、その中で要録というお話を先月も私、させていただいたのかなと思うんですけど、その内容が小学校のほうに要録として情報として上がるんですけども、そういった中でその要録がとっても役に立っているというお話でした、その会議の中では。

ただ、土田小学校さんの校長先生のお話の中で、要録の中には子供たちのマイナスな点が記載されていないということで、いざ小学校へ入ってきたんだけど、ちょっとたまたま問題を起こしたりする子供たちもして、要録には記載されていないようなことがあったりとかして、指導するときちょっと困ったことがあったということもおっしゃって見えました。

どうしても、やっぱり一保護者として、情報として幼稚園に通っているお子さんの子供のマイナスポイントを先生に伝えるということがなかなか難しいのかなという現状が十分伝わってきました。

それから、3点目になります、土田小学校さんも生徒数が増えてきて、ここで申し上げていいのかわかりませんが、教室が足りないのでプレハブ教室が欲しいなあと校長先生がおっしゃっていました。敷地も確保、いいところが……。小池さんもそのときに

ちょっと困った顔をしていらっしやいましたけれども、ちょうど花壇の前のところにいるところがあるので、ここにプレハブがあるといいなあとやんわりとおっしゃってみました。

それから、6月15日に私も少し午前中に時間が取れましたので、兼山小学校さんの運動会のほうへ、金管バンドを、ちょっと私拝見したことがなかったので、その時間に間に合うように小栗委員さんと連絡を取りながら行かせていただきました。とても本当にすばらしい演奏会で、ちょっと蜂が入ってきて一旦中断することもありましたけど……。

先生方が殺虫剤を持って、すぐ対応していらっしやったんですが……。

○ **教育長（堀部好彦君）** 演奏の途中に、楽団というか子供たちのところに蜂が来て。

○ **教育委員（梶田知靖君）** そうです。刺されたりとか、そういったことにはなりませんでしたが。本当によく練習されて、大きな管楽器を小さな子供たちが抱えて一生懸命吹いている姿に、本当にとても感動を覚えまして、本当にいいものを見させていただきました。ありがとうございました。

私の報告は以上になります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

積極的に学校のいいところを見ていただくということで、本当にありがとうございます。

まず、今の訪問の中で土田小学校のボランティアの件なんですが、外国籍児童への指導を充実させていくということで教員不足に負けないぞということでボランティアを募って子供たちの支援に当たる、そんな動きをコミュニティ・スクールの組織的な動きということでやったださっているんですね。それが大変ありがたいなあということで、コミュニティ・スクールはまだ立ち上げの時期なんですけど、大変よい事例として広めていきたいなあということを思っています。

教育委員さんの訪問の記録から、それを私、見つけて、私のほうでも独自に校長先生にも聞き取りをして分かったことなんですけれども、本当にありがとうございます。

それから、幼保の連携の幼稚園、保育園、幼保小の連携についてなんですけれども、この視点もとっても大切で、梶田さん、きちっと要録のことで指摘をして実態をつかんでくださっていること、大変ありがたいなあというふうに思います。

言われるとおりで、要録にはそういったマイナス面を書くことはほとんどないと思います。書くとしたら、こうこうこういうことが課題であるとか、さらにこういうところを望むとかというような表記なんですよ。そういった中で、学校がより子供たちのためにということで、子供の実態を具体的につかみたいという要望は感じております。ですので、幼保小の連携については、研究所の担当の職員がそれぞれの学校区でそういった連携ができるようにということで奔走しておりますので、またそういった事実はいい事例があれば、また研究所からの報告があるんじゃないかなあというふうに思っています。「架け橋プログラム」というものです。方針と重点の中にも書いてございますけれども、そういった取組があるということをお知らせください。

それから、教室については本当に教育総務課の課題にはなってくるかとは思いますが、これは全体を見ながらバランスを考えながら、予算等を踏まえて計画がなされていくというふうに思っております。

本当に充実した訪問であることが伝わってきました。ありがとうございます。

その上でということで、もう既にやっておられることもあるかと思いますが、あえてということで、教育委員さんによる学校訪問で私が期待していることをお伝えしたいなあというふうに思います。

一番期待しているのは、教育委員さんと校長先生とのよい関係づくりです。今の教育委員さんのお話をお伺いすると、もう十分にこのよい関係づくりをやってくださっているなあというふうに感じています。教育委員が訪問するので学校が構えている、それから教育委員が厳しい指摘をしたなんていうことでごくしゃくしているような感じは全く感じられない。本当にありがたいなあというふうに思っています。

このよい関係づくりのために、私は大切なことが2つあるんじゃないかなあというふうに思っています。

1つは、学校が喜ぶ評価をしていくこと。これはやってくださっていると思います。平たい言葉で言えば、校長が喜ぶ褒め言葉です。校長は、なかなかこれは人に、周りの人から校長が褒められるということがやっぱりリーダーというのは少ないと思うんですよ。そういう中で、具体的な事実を基に、校長先生、こういうところがいいですよというふうに教育委員さんに褒めていただくのは、校長先生は本当にうれしいです。

それから、よい関係づくりのために必要な2つ目は、言葉はおかしいかもしれませんが、褒めてばかりじゃということも思いますので、やはり指摘というか助言をする必要があるだろうなあ。学校のためになる助言、これをしていただけると大変ありがたいですし、もうしてくださっているんじゃないかなということも思っています。

何でそう思うかということ、お三方それぞれ学校の教育活動を見ていく視点があるでしょう。それぞれの視点があり、その視点はきつこういった場だとかいろんな研修の場だとか、ふだんの情報収集の中で学ばれているので、学校の教育活動を見ていく視点をきちっと持っておられるんじゃないかなというふうに思っています。

その視点がぶれたり曖昧だと、助言しても何を言っているか分からないということになってしまうと思うんですね。でも、そういうことではないだろうなあというふうに思っています。

そういった中で、あえてということで今申し上げたわけですが、まだまだもう少し訪問があると思いますので、引き続きよろしくお願ひします。ありがとうございます。

## 議事

○ **教育長（堀部好彦君）** では、議事に入りたいと思います。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 議案書を御覧ください。

表紙の裏のページの目次のとおり、本日は議案が2件です。

議案第19号 可児市学校運営協議会の委員の委嘱について、議案第20号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上2件についてよろしくお願ひします。

○ **教育長（堀部好彦君）** 議案第20号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてに関しては、個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については非公開といたします。

それでは、議案第19号 可児市学校運営協議会の委員の委嘱についてを議題といたします。

- **学校教育課長（佐野政紀君）** 議案書の1ページを御覧ください。

議案第19号 可児市学校運営協議会の委員の委嘱について。

可児市学校運営協議会規則（令和4年可児市教育委員会規則第3号）第3条に基づき、下記のとおり学校運営協議会委員を委嘱する。令和5年6月23日提出、可児市教育長堀部好彦。

記1. 対象学校、土田小学校。

2. 委員名簿、次ページのとおり。

3. 委嘱期間、令和5年7月1日から令和6年3月31日。

4. 委嘱人数、3人。

2ページを御覧ください。

可児市学校運営協議会委員名簿、土田小学校になります。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ただいまの事務局の説明について御質問、御意見等ありませんでしょうか。

よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

特にないようですので、この件については原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については原案のとおり承認をいたします。

#### 各課所管事項

- **教育長（堀部好彦君）** 続いて、各課所管事項です。

- **事務局長（飯田晋司君）** 私からは6月議会の結果について御報告させていただきます。

5月31日に議会が開会いたしました。6月8日、9日に一般質問がありまして、教育委員会所管では再質問を含めると2人の議員から次のとおり質問がございました。

まず1人、天羽議員からですが、防災無線の運用などに関する質問と併せて、多世代が支え合う防災訓練のための中学生の教育は有効と考える。現状と課題はと題しての質問でございます。

質問全体に対して、防災担当である総務部長が答弁いたしました。

中学生の協力については、中学生の参加状況自体を把握していないとした上で、中学生の参加は地域の危険な場所を知ってもらうこと、近所の方と顔見知りになることなど、防災における地域コミュニティの観点から有効である。課題としては、自助・共助・公助への理解を深めてもらうとともに、家庭や自治会などが一体となって取り組む必要があるということという答弁をしております。

なお、再質問で、教育委員会に対して、中学生が防災訓練に参加することを進めるに

当たって、学校が協力できることは何かと問われました。これに対しては、基本的には地域行事などへの中学生ボランティアの参加募集に準じての対応となるとした上で、地域や学校によって差はありますが、例えば主催者による説明会を学校を会場に行っていただくことや募集チラシの掲示や参加申込みの取りまとめなどのほか、地域の防災訓練に参加することの意義を踏まえ、可能な範囲で参加を促すことなどが考えられると答弁いたしました。

続きまして、伊藤健二議員から、マイナ保険証の導入で現場はどうなるかと題して質問がありました。

その中で、修学旅行での学校の保険証の対応について答弁をしております。

質問の内容といたしましては、修学旅行などの際、保険証のコピーを持参するなど受診につなげてきたと思われるが、現行の保険証が令和6年秋に廃止になった後、マイナ保険証を教職員が持ち運ぶなど、どのように対応するのかと問われました。

それに対して、答弁としましては、本市では小・中学校全16校中、コピーを持参するのが8校、持参しないのが8校であること。現行の保険証が廃止になった後でも紛失等のリスクを踏まえ、マイナ保険証を持ち運ぶことは考えていないこと。資格確認書と呼ばれる被保険者からの申請により発行される確認書類が修学旅行の際に職権での一括交付の対象となるかなど、国から取扱方針がまだ示されていないことなどから、それを待って検討すると答弁いたしました。

なお、先回の教育委員会会議で議決いただきました物価高騰に伴う学校給食センターの給食材料費の増額を含む補正予算案につきましては、議案として上程し、予算決算委員会へ付託されました。6月12日の予算決算委員会では、学校給食センター所長が当該補正予算案について説明し、6月22日議会最終日に採決されました。

また、6月16日に開催された教育福祉委員会で、可児市教育大綱案について教育総務課から説明し、御理解をいただいております。

私からは以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育総務課長（水野 修君）** 私のほうからは、3点お話をさせていただきたいと思います。

まずは、今やっただいております教育委員さんの学校訪問につきましてありがとうございます。現在8校ですので、半分ぐらい済んだところでございます。また、来週以降も行われますので、よろしく願いいたします。

どの学校でも、皆さんしっかり見ていただけて、特に子供の姿であるとか、地域との関わり、そういったところを丹念に聞いていただいたり、確認をさせていただいておるところでございます。また、学校の先生の状況、役割、そういったところもしっかり確認をさせていただいているというところもございましたので、今後の教育行政等につきまして、いろいろまた御提案とかをしていただけたらいいかなあとと思いますので、よろしく願いいたします。

それから、2点目でございます。

次期教育大綱についてです。これにつきましては、この後、午後からの総合教育会議で御審議いただくことになりまして、最終決定していただくこととなります。よろしく

お願いいたします。

そのときにもちょっと触れさせてはいただきますが、6月30日には第1回の教育振興基本計画の策定委員会が開催されます。委員の皆さんの御出席はございませんが、そういったふうに始まっていきますということで御承知おきをお願いしたいと思います。

この策定の進捗につきましては、教育委員会会議の中でその都度、またお知らせをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから3点目、ちょっと工事の関係でございます。

学校につけますLEDの関係の工事でございます。こちらのほうは7月から全16校で行われていきます。工事期間は今から、7月から大体来年1月末ぐらいまでには完了ができるのではないかと考えております。これを普通教室、特別教室、体育館、全て行わせていただきます。トイレ以外は全て入るという形になっていくと思っておりますので、御承知おきをお願いいたします。

また、先ほどからお話の中で出ておりますプールの件でございますが、何とか間に合わせたいと思ひまして、こちらも鋭意、修繕とか準備のほうをやらせていただいておりますが、どうしても4年間使われなかったということでございまして、機械の中で不具合が乱発しております。そういったところもございまして、ちょっと1週間程度遅れてしまったようなところが今渡北、帷子、東明の各小学校、それから中部中学校で発生しております。

こちらのほう、中部中学校のほうは若干今対応中でございますが、ほか3校は既に完了してございまして、使っていただいておりますというところでございます。

また、中には水が漏れたというような事案もございました。これは原因のほうをこちらで確認させていただきまして、こちらの対応も既に済んでございまして、今は通常どおり使用していただいておりますというような状況でございます。

何とかこちらのほうも楽しんで使ってもらえるようにいろいろと努力をさせていただいておりますので、御承知おきいただきたいなと思っております。

私のほうからは以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** 5月12日以降の学校に関わる動きをお伝えします。

インフルエンザ、コロナ陽性による学級閉鎖の報告は受けておりません。

私も6月17日の土曜日においてa1aで開催された少年の主張可児市大会「わたしの主張2023」に審査員として参加させていただきました。市内の中学生12名の主張でした。評価については、大変悩みました。どの生徒も今日的な課題を捉え、自分の考えをしっかりと持った主張でした。

西可児中学校の吹奏楽のアトラクション、そして善行少年の価値づけも会に花を添えることができたというふうにお見受けしました。

希死念慮についてです。

アンケートで、死んだほうがましだと思うことがあると答えた生徒が11人、自傷行為をしている報告を受けた児童・生徒が11人、合わせて22人おります。この件につきましては、生徒指導を担当している真野主事より、後ほど説明をさせていただきます。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

○ 教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君） お願いをいたします。

いつものように、別冊の教育研究所よりを御覧いただければと思います。

私からは御紹介と報告で4点をお願いいたします。

まず、1点目です。

3ページの下段から4ページにかけてを御覧ください。

今年度、研究所主催の夏季研修講座です。そこにあります①から⑨の9つの講座を開催して、先生方の資質向上を図ります。教育委員の皆様には、もし御都合が合えば、先生方が学んでみえる姿を御覧いただければと思ひまして御紹介です。

特に4ページの④、平田オリザ先生のコミュニケーションワークショップですが、今回の教育委員会議と同じ日、7月28日に行います。ワークショップは16時までやっておりますので、もしよろしければ、教育委員の皆様は会議の後、昼食を取られて a 1 a をのぞいていただいてもいいかなあとと思ひますので御紹介です。

2点目です。

4ページ下段から5ページを御覧ください。

これは7月5日に行われる市教研の公開授業の一覧です。コロナ禍のため、ここ数年、教育委員や事務局の皆様には御案内を差し控えておりましたが、コロナのほうも落ち着いて、こちららもぜひ御都合が合えば御覧いただければと思ひ、御紹介をさせていただきました。

教育委員の皆様には、今年も11月に笑顔の学校公表会で動画を見ていただきたいと思っておりますが、この市教研のほうは動画ではなく、生で授業を見ていただける機会となっております。ぜひ、生で見るからこそ感じられる教師のやる気、意気込みであったり、子供たちの学びに向かうまなざしであったり、その教室で流れる雰囲気を感じていただければと思ひます。

もし参加を希望される場合は、研究所の古野主事が担当ですので、御連絡いただけると幸いです。

3点目、5ページを御覧ください。

現在、研究所にて教科書展示会を開催しております。現在使用されている教科書以外にも様々な会社の教科書を見ることができますので、こちららもお時間が許せば研究所にお立ち寄りください。

最後です。4点目は報告です。

5ページ下段から6ページにかけてです。

つながりサポーター5月の活動報告です。

前回の報告で、4月は特定の学校の依頼を受けての活動でしたが、ゴールデンウイーク明けからは全ての学校と連携しながら、合計57回、17の家庭への家庭訪問を行いました。

そのうち、児童・生徒、また保護者にお会いできたのは8家庭、さらにそのうちスマイリングルームに来ることができた児童・生徒は見学者も含めて5名おりました。その5名の中には、例えば現在中2の生徒で、小4から不登校になり、小6では2回だけ登校、中学校では全欠であった子が、ゴールデンウイーク明けからですが、複数回、スマ



イリングルームに通うということができている子もおります。また、メタバースでつながり始めた子も2人おります。

まだ始まったばかりの活動ですが、成果を上げていますが、そんな中で活動したからこそ分かってきた問題点も見つかってきました。これらについては今後、行政のほかの課と連携しながら改善策を探っていきたいなというふうに思っております。

そのほかの重点項目についても6ページに進捗状況を記載してありますので、お時間のあるときに御一読ください。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校給食センター所長（水野伸治君）** 今月6月2日金曜日ですが、台風2号の接近に伴いまして全国各地で大雨となっており、可児市も当日午前10時40分を過ぎた頃に大雨警報が発令されております。

子供たちの下校につきましては、各学校によりまして下校時刻を判断されたようですが、給食につきましては事務局内で前日に協議、調整をいたしまして、通常給食ではなく、給食用の非常食を提供させていただくこととしました。

給食用の非常食というのは、救給カレーまたはサバイバルパンになっておりますが、カレーまたはパンどちらか、1人当たり2食分をそれぞれ学校に配備させていただいております。

今回使用しましたので、今年度の補充は夏休み明けになってしまいます。ただ、これからまだまだ出水期で梅雨は続きますので、事務局内で十分連携いたしまして、マニュアルに沿った形でいろんな状況に対応してまいりたいと考えております。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

各課からのお話につきまして、御質問、御意見ございますでしょうか。

では、私から4点、共有したいなあということを思ってお伝えをします。

1つ目ですが、学校教育課長から少年の主張大会において善行表彰が行われたということでお話がありました。

その中で、中部中学校の生徒が表彰されました。中身は、平牧地区センターからの依頼を受けて、小学生が楽しめる何かイベントを考えてくれよといった非常にざくっとしたお任せの提案があって、それを生徒が受けて、ドッジボール大会を計画して、何十人も小学生を集めて楽しみましたと。すばらしいなあと思いました。

これは、小栗委員が訪問でつかんでくださった旭小校長の地域貢献ができる子という、まさにそういった貴重な体験をしながら、自己有用感を味わっているんじゃないかなということをお話しました。これが1点目です。

2点目ですが、研究所の夏休みの夏季講座の紹介がありました。研究所の資料の3ページの2番の(1)の②、3ページの一番下ですが、幼保小中連携講座とありますよね。これ、まさに梶田委員が言っておられた幼保小の連携について学ぶ場であるということ、子供の理解をしっかりと行った上での指導ということがきっと話題になるんじゃないかなあということも思っています。ということで紹介です。これが2つ目。

3点目ですが、公表会と市教研のことなんです、市教研について、先ほど主任指導主事が対面で子供たちや先生の実際の指導の様子を見ながらというふうに、そういった研修ができますよと、授業を公開することで。一方で、公表会はコロナ禍の中でオンラ

インでやるようになりました。これは、オンラインはオンラインのよさがあるってやっているわけです。そのため、公表会はオンラインで市教研は対面でという、この両輪で学習指導等のやり方について学んでいきたいと思いますという動きがございます。

これは、春里小学校の校長が言っていたコロナ禍で学んだことを全部元に戻すんじゃないかってというお話がありました。その例でもあるんじゃないかなあということを思って、今お伝えをしました。

それから、最後に4点目ですが、不登校の対策について、これも研究所からの報告ですが、2人のサポーターの取組が本当に素晴らしいというふうに思っています。長井委員が言っておられた、見えない部分に手が届きつつある子がいるのかなというふうに思っています。ということで、紹介をさせていただきました。

それでは、その他よろしかったですかね。

- **教育委員（梶田知靖君）** 事務局長さんからお話があった天羽議員さんの中学生の子たちが防災訓練に参加というもので、教育長のお考えってどうですか。中学校の子たちが参加するということに対して、何か思いをもし教えていただけたら。

というのは、私ちょっと今回、少年の主張は出席できなかったんですけど、実は金、土と東京のほうへ自分の仕事で、土曜日の東京国際防災展というものに視察に行ってきたものですから。今、地震も結構多かったりとか、可児市ですと地震というよりはやはり水害のことが懸念されるのかなと思います。例えば、防災訓練は私が過去に覚えたのは消火器の使い方とか、そういったことがメインになってくるのかなと思うんですが、中学生の子たちが土のうを積んだりとか、そういったことがもしできれば、かなりいざというときに自分の家庭というか、守ることができるのかなあと思ったりするんですけども、教育長の中学生の子たちがというお考えをお聞かせいただけるとと思ひまして。

- **教育長（堀部好彦君）** 梶田さん、ありがとうございます。

これについて、実はさっき触れようかなと思っておったんですけども、私としては地域の担い手、社会のつくり手として、防災訓練に中学生が参加する意義は大きいと、大変大きいというふうに思っています。先ほどの平牧地区センターから依頼された小学生が楽しめる取組を考えてとのこととも全く同じで、これは地域のためになる、地域をつくっていく、そういった取組、ボランティアが表彰されていることについても大変ありがたいなあというふうに思っておりますので、私の考えとしてはこの防災に積極的に生徒が関わる動きをつくっていくのは大変これは、防災部局がそういった動きをつくってくだされば、こちらとしては協力をしていきたいなあというふうに思っています。

また、防災教育の観点も、学校を見ていく視点として、梶田委員、持ってくださいとありがたいなあということを思いました。

- **教育委員（梶田知靖君）** はい。ありがとうございます。

- **教育長（堀部好彦君）** こちらこそありがとうございます。

ほか、よろしかったでしょうか。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございました。

## 委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。

何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

#### その他

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次にその他に行きます。

次回の日程等です。

- **教育総務課長（水野 修君）** 先月、次回の会議の日程の御提案をさせていただいておりますが、7月28日金曜日の午前9時からということをお願いしたいと思っております。場所はここではなくて、4階の第3会議室、教育委員会のフロアのエレベーターを降りたすぐ左手のところでございますが、こちらになりますので、お間違えのないようにだけ、よろしくをお願いしたいと思っております。

また、この会議に引き続きまして、教育政策会議を行いたいと思っておりますのでお願いいたします。政策会議の内容については、点検評価についての予定でございます。よろしくをお願いしたいと思っております。

続きまして、その次の8月の日程でございますが、例年ちょっと確認だけさせていただいておりますが、8月16日水曜日をお願いしたいと思っております。時間についてですが、午前9時で御照会をかけておると思っておりますが、ちょっとだけ遅くさせていただいてこちらの都合で、10時からということをお願いしたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。大丈夫ですかね。

〔「はい」の声あり〕

では、またこちらのほうで調整をさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** よろしくお願いをいたします。

では、ちょっと1時間くらいですので、引き続きでよろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

（以下非公開）

（以上非公開）

#### 閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** 以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前10時45分